2024 年度入学生以降

スポーツ・健康科学部・教育研究上の目的及び３つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部は、本学の建学精神とその教育理念に基づき、国民の健康の維持と増進を視野に、スポーツを通して文化の発展と健康づくりに貢献できる人材の育成、医学・健康関連分野で健康の増進に寄与できる人材の育成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

スポーツ・健康科学部は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（スポーツ科学、健康科学または看護学）の学位を授与する。

１．豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

(1) スポーツ科学・健康科学・看護学分野の基礎知識・理論の総合的な理解とともに、専門知識と実践的技能を習得している。

(2) 幅広い教養を身につけることにより、広い視野からスポーツ科学・健康科学・看護学を実践的に役立てることができる。

２．他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

(1) 他者に対し常に思いやりの心を持ち、責任感と倫理観に基づいて思考・判断・行動することができる。

３．自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

(1) スポーツの振興、健康の保持・増進といった社会的使命を認識して、社会貢献・地域貢献の一環としてスポーツ科学・健康科学・看護学を社会に役立てることができる。

(2) 自己のキャリアを切り開いていく強い意欲を持つとともに、社会の動向に深い関心を持ち、社会の発展のために自身の能力を役立てるという使命感を有している。

４．本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

(1) 社会における多様性を受容することができ、かつ尊重し適応することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

スポーツ・健康科学部（スポーツ科学科・健康科学科・看護学科）は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

１．教育内容

(1) 全学共通科目の履修により様々な分野を学修することで、幅広い教養を修得するとともに豊かな人間性を養う。

(2) 外国語科目として、1〜2 年次において英語を必修とするとともに、選択科目として中国語、コリア語、フランス語及びドイツ語を選択する。さらに各学科において、教育課程の方針に応じた外国語教育の科目を開講する。これらを通じて、異文化への理解を促すとともに外国語コミュニケーション能力および国際性を養う。

(3) 初年次および 2 年次において、大学生としての基本的知識・技能と各学科の専門分野を学ぶための基礎的能力の養成、ならびにリメディアル教育あるいはキャリア教育のために、各学科独自の科目

を開講する。

(4) 専門教育科目について、各学科はそれぞれスポーツ科学・健康科学・看護学の専門性に応じて、おもに 1 年次・2 年次にて基礎的な科目群を学修し、年次進行とともに発展的な科目群について講義による授業形態に加えて、実技・演習・実習形態の授業により学修するように体系的なカリキュラム構成となっている。

(5) スポーツ科学・健康科学・看護学の分野における各種資格に必要な科目群を、年次進行に合わせて配置する。

２．教育方法

(1) 主体的な学びを促進するために､アクティブ･ラーニングおよび ICT を取り入れた授業を展開する。

(2) 専門教育科目においては、各種実習・演習授業を通してより実践的な能力を修得させる。

(3) 3 年次および 4 年次において、少人数制によるゼミナールを開講し、インタラクティブな教育を通じて、学生の主体的な学修を促進する。

３．評価方法

(1) 学位授与方針に掲げた項目に関する形成的評価として、卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テストおよび学科の専門性に応じた各種テストなどを用いる。

(2) 国家試験および各種資格試験受験者に関しては、4 年間の認知領域の学修成果について、それら試験の結果によって評価する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

スポーツ・健康科学部は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

１．知識・技能

(1) スポーツ科学・健康科学・看護学を学ぶための十分な基礎学力を有している。

２．思考力・判断力・表現力

(1) 課題に取り組むにあたって、論理的に思考し、判断することができる。

(2) 自分の考えを明確に表現するとともに、他者の意見に耳を傾けることができる。

３．主体的に学習に取り組む態度

(1) スポーツ科学、健康科学、看護学に強い関心を持ち、高い意欲を持って学習に励むことができる。

(2) 自分自身の人間性を成長させるべく、常に努力を怠らない姿勢を有している。

2024 年度入学生以降

スポーツ科学科・教育研究上の目的及び３つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部スポーツ科学科は、スポーツ科学に関する学識を修め、人間性豊かなスポーツ指導と健康づくりの能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

スポーツ科学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（スポーツ科学）の学位を授与する。

１．豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

(1) 豊かな人間性と社会性の基となる幅広い教養を有し、スポーツ科学に関する専門知識や技能を総合的・学問的に理解している。

(2) スポーツ科学に関する実践的知識・技能を修得し理解している。

２．他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

(1) スポーツ現場のさまざまな課題に対して、スポーツ科学に関連する研究方法を用いて考察することができる。

(2) スポーツをはじめさまざまな場面において、自ら判断して科学的・体系的に指導することができる。

３．自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

(1) スポーツ科学に関する課題を探求し、主体的・継続的に学修することができる。

(2) 社会の一員として自分の役割を自覚し、与えられた課題に対して挑戦力、問題解決力、及び行動持続力をもって対処することができる。

４．本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

(1) 多様な社会のニーズを理解し、人間がもつ様々な能力を理解し、尊重することができる。

(2) 本学の理念（多文化共生）に基づき、多様性を認め、地球的規模の視野と感覚を持ち、異文化への理解力・共感力、コミュニケーション能力を発揮し、多文化社会における諸問題の解決に貢献できる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

スポーツ科学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

１．教育内容

(1) 1 年次には、必修科目のスポーツ科学概論、生理学、解剖学、スポーツコーチング概論などを通じてスポーツ科学の基礎を学修する。2 年次以降ではスポーツ科学の専門的な各種分野を学修し、3 年次には各演習科目およびゼミナールにおいて専門的に学修する。

(2) 実技科目として、1 年次にはスポーツ実技 A（基礎運動系）、ストレングス＆コンディショニングベーシックを学修する。2 年次にはスポーツ実技 B（球技系）ならびにスポーツ実技 C（武道・ダンス系）を学修する。3 年次には各種目のコーチングへと発展させる。

(3) 外国語科目として英語を 1 年次において必修とし、加えて中国語、コリア語、フランス語、ドイツ

語およびコミュニケーション英語の中から１つを選択することにより、外国語教育を通して、異文化の理解に加えて自国の言語や文化を客観的に見直すとともに、バランスのとれた国際感覚を養う。

(4) 基礎教育科目として、１年次の「フレッシュマンセミナーAB」を通じて大学生として身につけてほしい基礎的な能力を養い、2 年次には「スポーツキャリアセミナーAB」により各自の進路について考え、目的を達成するために自ら行動する能力を育成する。

(5) 4 年間を通じて、全学共通科目を履修することにより幅広い教養を修得する。

２．教育方法

(1) 主体的な学びを促進するために、特に講義系の専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。

(2) 3 年次、4 年次においては、ゼミナールを選択でき、卒業研究を中心としたより主体的な学修に取り組む。特に 3 年次には、スポーツをはじめとしたボランティア活動やインターンシップへの参加を積極的に推奨する。

３．評価方法

(1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、スポーツ科学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。

(2) 4 年間の総括的な評価として、卒業時の学生によるアンケート調査によって評価する。

(3) 教員採用試験受験者に関して、教員採用試験の結果は 4 年間の学修の明確な成果とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

スポーツ科学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

１．知識・技能

(1) スポーツ科学を学ぶための十分な基礎学力及び実技能力を有している。

２．思考力・判断力・表現力

(1) 自己の考えを明確に表現し、他者の意見を素直に聞くことができる。

(2) 課題に対して論理的に考察することができる。

３．主体的に学習に取り組む態度

(1) スポーツ科学、スポーツ指導に強い関心を有している。

(2) 社会の諸課題に対して自ら学ぼうとする高い学習意欲を持ち、継続的な努力ができる。

(3) 人と人のつながりの重要性を理解し、他者を積極的に理解しようとする姿勢をもっている。

2024 年度入学生以降

スポーツ科学科アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 桐門の翼奨学金試験 ※選抜方法は入試方式で異なる	学力試験 英語民間試験スコア	●		
一般選抜 （英語民間試験活用総合評価型）	英語民間試験スコア	●		
	課題論文		●	●
総合型選抜 学校推薦型選抜 特別選抜 ※選抜方法は入試方式で異なる	調査書　等	●		
	課題	●	●	
	小論文		●	●
	自己推薦書		●	●
	個人面接		●	●

2024 年度入学生以降

健康科学科・教育研究上の目的及び３つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部健康科学科は、生命の尊厳に基づいた生活の質を理解し、医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献できる人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康科学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（健康科学）の学位を授与する。

１．豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

(1) 社会人として高いモラルと教養を有し、臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて健康科学に関する専門知識や技能を総合的・学問的に理解している。

(2) 臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて修得した健康科学に関する知識や技能を活用し実践的に役立てることができる。

２．他者との協同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

(1) 臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて修得した健康科学に関する基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野を活用し、協同して社会的課題を解決できる。

(2) 今日の健康科学上の様々な課題に対して、臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて修得した健康科学に関連する手法を用いて考察することができる。

(3) 批判的思考（クリティカル・シンキング）を通して自分の意見を論理的に表現することができる。

３．自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

(1) 健康科学に関する課題や社会動向に常に関心を持ち、主体的・継続的に学修することができる。

(2) 健康科学の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献するために、与えられた課題に対して、さらなる向上心や責任感を持って対処することができる。

４．本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

(1) 幅広い教養と高い倫理性を備え、グローバルな視野で異文化を理解することが出来る。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

健康科学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。そして、本学の教育理念に基づき、臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野のスペシャリストを育成する。

１．教育内容

(1) 基礎教育科目・語学では、必修科目の基礎生物学 A、基礎化学 A、フレッシュマンセミナーA/B、健康科学概論などのリメディアル科目において、健康科学を学ぶために必要な学習スキルを学び、生命倫理学、英語 A／B、情報科学を通じて、生命の尊厳に基づく倫理性、国際性、情報収集力の獲得

と社会性を習得させる。

(2) 専門教育科目では、健康科学のエキスパートとして科学的な思考力と判断力を養成するための生化学、生化学実習、解剖生理学 A、予防医学概論、環境衛生学、公衆衛生学などの必修科目での講義・実習・演習の履修を通して、健康科学の基礎能力を育成する。

(3) 全学共通科目では、多様な学問分野を履修することで幅広い教養を備えた人間性を養う。

(4) 臨床検査コースでは、生化学検査学 A/B、生理検査学 A/B/C、病理検査学実習、臨地実習など臨床検査技師国家試験受験資格を取得するのに必須な教科目を含め履修することで、臨床検査に係る学問領域を総合的に学び、専門職種としての知識及び技術を教授する。

(5) 健康マネジメントコースでは、栄養学（基礎と応用）、食品科学、健康運動づくりの理論、スポーツ生理学、ヘルスプロモーション概論などの専門科目を通じて、食品・栄養・運動が持つ健康への影響について総合的な知識と理解を養い、食品衛生管理者、食品衛生監視員、健康運動実践指導者をはじめとした国民の健康づくりに貢献する人材を育成する。

(6) 理科コースでは、自然科学の基本となる物理・化学・生物・地学の基礎知識を習得し、生化学、生態学、有機化学などの学びから科学系専門職に必要な知識を養うとともに、教科教育法や教職実践演習などを通して、理科教員免許の取得と、教員に求められる力の育成を行う。

※ 取得可能資格及び免許：臨床検査技師国家試験受験資格、食品衛生管理者、食品衛生監視員、健康運動実践指導者、第二種作業環境測定士、中学校教諭一種免許（理科）、高等学校教諭一種免許（理科）。

２．教育方法

(1) １年次においては、全員が基礎教育科目・語学、健康科学の基礎的内容を中心に学び、２年次より各学生の希望進路に沿ったコース選択を行い、専門的知識を修得させる。

(2) 主体的な学びを促進するために、専門科目における各種の演習授業・実習授業を通して問題解決型のアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。

(3) ３年次、４年次においては、少人数制による卒業研究演習、卒業研究の履修を積極的に促進し、インタラクティブな教育を実施する。

３．評価方法

(1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、健康科学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測るものとする。

(2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価として、各学年学期でコモンルーブリックを活用した個別指導と評価を行う。また、卒業研究履修者においては、作成された卒業論文も評価の対象に含める。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

健康科学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

１．知識・技能

(1) 入学後の就学に必要な基礎学力を十分有している。

(2) 現代社会の様々な健康問題に対する興味を持っている。

２．思考力・判断力・表現力

(1) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

(2) 課題に対して多面的かつ論理的に考察することができる。

３．主体的に学習に取り組む態度

(1) 臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学分野を含む健康科学に強い関心を有している。

(2) 健康科学に対して自ら学び発展しようとする高い勉学意欲を持ち、継続的な努力ができる。

(3) 豊かな人間性を持って多様性を受容し、他者と積極的に対話することができる。

健康科学科アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 桐門の翼奨学金試験 ※選抜方法は入試方式で異なる	学力試験 英語民間試験スコア	●		
一般選抜 （英語民間試験活用総合評価型）	英語民間試験スコア	●		
	課題論文	●	●	●
総合型選抜 学校推薦型選抜 特別選抜 ※選抜方法は入試方式で異なる	調査書　等	●		
	基礎学力テスト	●		
	小論文	●	●	●
	自己推薦書		●	●
	個人面接		●	●

2024 年度入学生以降

看護学科・教育研究上の目的及び３つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部看護学科は、主体的に学問を探究し、人格形成とさまざまな人々への理解の涵養により、地域社会における生活者の健康回復・維持・増進に向けて創造的に活躍できる人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（看護学）の学位を授与する。

１．豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

(1) 豊かな人間性と幅広い教養を備え、看護学の専門的知識と技能を総合的に理解できる。

(2) 社会の要請に柔軟に対応するために必要とされる専門的知識をもち、対象者の健康レベル・健康課題を成長発達に応じてアセスメントできる。

２．他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

(1) 看護職及び在宅療養を支援する保健医療福祉専門職の役割と、スポーツ・健康科学分野の専門職との連携により、疾病・介護予防に貢献するためのアプローチについて考察できる。

(2) 特定の健康課題のある看護の対象者が、住み慣れた地域社会で尊厳ある療養生活が送れるよう援助方法の計画立案及び具体的な援助を実践できる。

３．自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

(1) 看護師としての職業的アイデンティティの基盤をつくり、専門職として生涯にわたり継続して専門的能力を向上させることの重要性を理解し、具体的なキャリアデザインを計画できる。

４．本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

(1) 多様な文化的背景をもつ様々な看護の対象を理解し、コミュニケーション能力を発揮し、看護専門職として多文化社会における諸問題の解決に向けて理解し考察することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

１．教育内容

(1) 総合基礎科目（全学共通科目・基本スキル科目）、専門基礎科目（人体の構造と機能、疾病と治療、地域社会と医療福祉）、専門科目（看護の基盤、看護の実践Ⅰ、看護の実践Ⅱ、看護の実践Ⅲ、看護の統合）の３つの科目群で構成する。

(2) 総合基礎科目では、ひとりの人間として深い教養と豊かな人間性を身につけ、さまざまな人々の異なる文化や考え方、多様な価値観が理解できるよう幅広い分野を学修する。また、大学生としての円滑な適応を促進し、基本的な対人関係スキルと外国語の強化を図るための科目を配置する。

(3) 専門基礎科目では、ヒューマンケアの専門職としての前提となる必要不可欠な知識・技術を修得す

るための科目区分とする。『人体の構造と機能』では、生命活動や身体の働き、心理・社会的発達とこころの働きなどについて学修する。また、『疾病と治療』で、疾病の原因・発生機序・症状、検査・治療を学修し、『地域社会と医療福祉』において、地域の文化、地域で生活する人々の健康の保持・増進と疾病予防、保健医療福祉制度などについて学修する。

(4) 専門科目では、基礎から応用・発展、統合の学修へと向かう科目区分とする。『看護の基盤』で、全ての看護学領域に共通し、看護実践能力獲得の基盤となる基本的な知識・技術・態度を修得する。その上で、看護専門職として多様化・複雑化する看護の対象者に幅広く対応できる能力を修得するために『看護の実践Ⅰ（理論と方法）』、『看護の実践Ⅱ（臨地実習）』、『看護の実践Ⅲ（看護の発展）』で、対象や場に応じた看護学を学修し、さらに、『看護の統合』で体系的な看護学を学修する。

２．教育方法

(1) 主体的な学びを促進するために、ICT 教育や PBL 型教育など、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を積極的に採用する。

(2) タブレット端末等にインストールした電子書籍・動画教材を活用し、看護技術演習や臨地実習での学習を支援する。また、タブレット端末を利用した演習などのフィードバックによりインタラクティブな教育を実施する。

３．評価方法

(1) 学位授与方針に掲げられた能力の形成的な評価として、看護学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト、OSCE（Objective Structured Clinical Examination:客観的臨床能力試験）などの結果によって測定するものとする。

(2) 国家試験受験者に関しては、4 年間の認知領域の学修成果の一つとして、国家試験の結果によって測定する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

看護学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

１．知識・技能

(1) 入学後の学修に必要な基礎学力としての知識を有している。

２．思考力・判断力・表現力

(1) 物事を多方面から論理的に思考することができる。

(2) 自分の考えを的確に表現し、言語化することができる。

３．主体的に学習に取り組む態度

(1) 看護の対象者である人間が好きで、その健康に関わる諸問題について、深い関心と倫理観を備え、看護を学びたいという意欲がある。

(2) 道徳的で積極的に他者とのかかわり対話ができる態度を有している。

2024 年度入学生以降

看護学科アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 桐門の翼奨学金試験 ※選抜方法は入試方式で異なる	学力試験 英語民間試験スコア	●	●	
一般選抜 （英語民間試験活用総合評価型）	英語民間試験スコア	●		
	課題論文		●	●
総合型選抜 学校推薦型選抜 特別選抜 ※選抜方法は入試方式で異なる	調査書　等	●		
	小論文	●	●	●
	自己推薦書		●	●
	個人面接		●	●